

女子高校野球における犠牲バントの有効性

吉良 起竜 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 渋谷 俊浩

キーワード：女子野球，犠牲バント，有効性

1. 緒言

野球とは2つのチームが攻撃と守備を交互に繰り返して、9 イニングの攻防の間に点を取り合うスポーツである。その様々な作戦の1つとして犠牲バントが挙げられるが、プロ野球ではその有効性が問われている。小林ら (2006) は、プロ野球2005年公式戦のデータから、無死1塁からの犠牲バントと得点の関係性を、「無死1塁からの犠牲バントは、2塁に走者を迎え入れる確率はヒッティングより低いことが分かる。」と報告し、表1のようにまとめている。

表1 無死1塁でのヒッティング・バント比較 (2005)

	送りバント	ヒッティング
走者を進めた成功率	78.5%	38.6%
得点できた確率	40.6%	42.0%
平均得点	0.81点	0.91点

また、現在女子野球が注目されている。女子野球の試合においても、犠牲バントが使用されることは少なくない。

そこで本研究は、女子高校野球を対象とし、犠牲バントから得点に至るまでの状況とヒッティングから得点に至るまでの状況を比較し、犠牲バントの有効性の是非を明らかにするとともに、最も得点が入った戦略や試合状況を分析することで、女子高校野球の特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

F 高等学校女子硬式野球部を対象とし、2012年から2016年までの公式戦スコアからデータ分析し考察した。調査項目は、基本データ12項目と試合場面別得点率6項目を設定した。

3. 結果・考察

女子高校野球の特徴を把握するため、女子公式戦176試合のデータと第98回全国高校野球選手権大会 (2016年) 48試合のデータ比較を行った。

男子高校野球の9イニングに対し、女子高校野

球は7イニングなので、女子の1試合平均データを男子の9イニングのデータに換算し、男子と比較した。その結果を次のようにまとめた。

①打者の能力は高い (安打数、得点が多く打率も高い) が、女子の投手能力 (球速やコントロール) は低い。女子投手の球速は、速くても120km程度である。打者は空振りすることが少なく、容易にバットに当てることができる。投手が求められる能力は、変化球などを使い速度に緩急をつけ、いかに打者のタイミングを崩すかであると考えられた。

②作戦としてはヒッティングが多く、犠打を作戦として用いることは少ない。その一方で、無死二塁と一死一塁、一死二塁の場面では犠牲バントがヒッティングを上回ったことから、無死一・二塁は併殺の可能性が高く、リスクを考えて犠牲バントがヒッティングと比較して有効であると考えられた。

③女子の走力が男子より劣る一方で、失策数は少ないことから、内野安打になる確率が低い (内野に転がればアウトになる確率が高い)。したがって、安打になる確率を上げるためには、力強くスイングをして速い打球を打つこと、内野手の頭上を越える打球が打てるように、ウェイトトレーニング等を行い、パワーアップを図ることが重要であると考えられた。

4. まとめ

本研究の対象は1チームのデータであることから、今後は他チームも加えたより多くのデータを収集し、女子高校生だけでなく中学生や大学生選手に関するデータ、球速やスイング速度の男女差に関するデータなどを総合的に比較検討することで、より詳細で正確な知見を導き出せると考えられる。

引用・参考文献

小林信也 (2006) 「データで読む常識をくつがえす野球」 草思社